

# 「ほつたらかしの個性」を 芯の強い個性へ変える のも、大学の務めです

関東学院大学 学長 大野功一

まとめ／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【学長プロフィール】1947年生まれ。中央大学商学部卒業。中央大学大学院商学研究科博士課程単位取得満期退学。関東学院大学経済学部専任講師、教授、経営学科長、経済学部長などを経て99年関東学院大学学長に就任(2005年まで)。09年に再任。

【大学プロフィール】1884年創立の横浜バプテスト神学校を源流に1949年開学。文学部、経済学部、法学部、工学部、人間環境学部の5学部10学科12コースを擁する総合大学。横浜・金沢八景、横浜・金沢文庫、湘南・小田原の3キャンパス。

大学全入時代を迎え、基礎学力や学ぶ意欲の低下した学生が増えている現実を前に、大学のあり方が問われています。そんななか、私が重視するのは「基礎学力」「倫理観」「自分で考え抜く力」「専門知識技術」という4つの要素です。基礎学力、特に国語力が不足しては効果的な学習はできません。読解力や表現力はあらゆる教育の基本です。入学前準備教育や初年次教育を充実させ、全学統一のプレースメントテストにより学力の確認および補修教育を行う予定です。

キリスト教の奉仕の精神が息づく本学は、「平和研究」「人権論」「環境と倫理」など特色ある科目を用意しています。ただし、座学だけで「倫理観」が身につくはずもなく、ボランティアなど課外のような活動を通して人格を形成してほしいと思います。例えば、タイで小学校作りの手伝いをしている学生がいます。また歴史的に産学連携が盛んな本学ですが、昨年は崎陽軒と共同で商品開発を行いました。こうした活動は単なるボランティアやイベントではなく、それを通じて学びを深める、社会の力を借りた成長支援であり、「自分で考え抜く力」の育成にも役立っています。商品

開発では、ものづくりや社会の仕組みなど学生は多くを学んだことでしょうか。記者発表におけるプレゼンテーションを見れば、力をつけたことは一目瞭然です。

一時期、初等中等教育の現場で「個性の尊重」がキーワードになっていました。それ自体に間違いはないのですが、私は個性の捉え方に問題があったのではと感じています。個性とは単に人と違うことではないのに、多くの子どもが「人と違うことは良いこと」という単純なメッセージとして受け取りはしなかったか。「僕は人と違う。だから干渉しないで」では、発展する余地はありません。

同様に、「私はあなたを認める。だから私も認めて」という発想になりはしなかったか。自分が優しくしてほしいから相手に優しくするというような発想ではなく、心から他者を認めるところまで行きついてほしい。そのままでは、何かにつまずいた時に乗り越えられません。「ほつたらかしの個性」を、芯の強い個性へと変えるのも、今の大学の務めだと思っています。私が課外での活動に期待するのはそのため。人とぶつかり、時に批判し合いながら個性を鍛えてほしい。厳しい現実のなかで耐えてなお輝く、鋼のような個性を作ってほしいと思っています。